

ニュースレター News Letter

No.
4

<http://www.kochi-u.ac.jp/imt>

2012.3

Promotion Program for Young Scientists and COE for Innovation of Marine Science and Technology



INDEX

- 1 TT発表会&学長懇談会開催
- 2 国際学会等派遣報告
- 3 「Proceedings of the Royal Society B」論文掲載
- 3 The Best Oral Presentation賞 受賞
- 3 TT教員に対するFD開催
- 3 外部資金獲得状況

IMT 2012.3

テニユア・トラック教員発表会&学長懇談会を開催しました

平成23年12月9日(金)、高知大学朝倉キャンパスにおいてテニユア・トラック教員による発表会を開催しました。

相良学長による開会挨拶、小槻若手研究者評価支援機構長(理事(研究担当))によるIMT事業の概要説明の後、テニユア・トラック教員6名が、学内の教職員や学生に対し、専門分野、これまでの研究経緯、現在の研究内容、今後の研究計画等について発表を行い、活発な質疑応答があり、本事業の大学内における存在意義を一段と高めることとなりました。



(上段左から)
相良学長、ウラノバ特任助教、片岡特任講師

(2段目左から)
三浦特任助教、小槻理事、寺本特任講師

(3段目左から)
小野寺特任助教、椿特任助教、津田教授



また、同日、テニユア・トラック教員と相良学長、同事業の推進にあたっている若手研究者評価支援機構の小槻機構長及び平野特任教授が参加した懇談会も開催され、テニユア・トラック教員がそれぞれの研究分野、研究活動の現状、今後の計画など自己紹介を交えた報告を行い、相良学長からは、テニユア・トラック教員の活躍が今後の高知大学の発展にとって極めて重要であるとの励ましと期待の言葉があり、テニユア・トラック教員は寄せられる期待の大きさと課せられた任務の重さを実感しました。



Promotion Program for Young Scientists and
COE for Innovation of Marine Science and Technology

国際学会等派遣報告

(椿俊太郎特任助教)



学会会場にて(共同研究者と)

2011年11月28日～12月1日の日程で、インドネシアで開催された国際会議HPI-Indonesia International Conference on Innovation in Polymer Science and Technology (IPST2011, Sanur Paradise Hotel)に参加し口頭発表を行いました。本会議では筆頭著者として “The effects of microwave heating

for biorefinery”と題して、マイクロ波照射を用いた糖質の水熱加水分解について口頭発表したほか、共著で1件の共同研究者との成果を発表しました。具体的には、海域や陸域由来のバイオマスに含まれる糖質のモデル化合物として二糖を基質に用いて水熱加水分解を行った結果、マイクロ波照射下では生成物の安定性が増し選択性が高まること、および海洋性バイオマスに多く含まれる塩化ナトリウムが糖質の水熱加水分解の促進とマイクロ波出力の低減に効果があることを報告しました。幸いにも、本発表は “The Best Presentation Award”として表彰していただきました。インドネシアは日本と同様に海に囲まれており、また熱帯気候特有の旺盛なバイオマスの成長量から、海洋性のバイオマスの有効利用が望まれています。本会議に参加してインドネシア科学院 (LIPI)の共同研究者とも再会を果たし、海洋性バイオマスの有効利用をテーマに新たな研究交流へと発展していければと思っております。

国際学会等派遣報告

(寺本真紀特任講師)



Sentosa島にて

2011年12月1～3日の日程で、シンガポールにある南洋理工学院のJohnny Queck博士の研究室を訪問し、研究施設の見学などをさせて頂き、同学院が受け入れる予定の海洋微生物資源コレクションの話伺いました。この細菌コレクションがLC-TOF-MS解析によって同定された後、共同研究する可能性を検討したいと考えています。

また、熱帯域の海水中の微生物相解析の為、シンガポール周辺の海水を観察し、East coast park、Sentosa島の浜辺の海水が生態学的に興味深いと考えた為、海水サンプルを採取しました。この海水中の微生物相解析により、温帯に属する日本周辺の海水とは異なる興味深い知見が得られると確信しています。

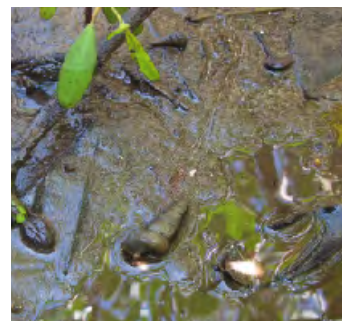
なお、海水サンプルを選んでいる際に、海水を淡水化する施設 (Marina barrage)にも立ち寄って施設を見学することもでき、水資源に乏しいシンガポールが採用した海水淡水化技術に感銘を受けました。今後は、この熱帯海水から得られた知見を含めて、地球規模の海洋域の微生物生態についても研究して行きたいと考えております。



本物のマーライオンは見れなかったが、シンガポール空港で見たマーライオン。

「Proceedings of the Royal Society B」に掲載されました

三浦収特任助教、及びスミノニアン熱帯研究所とカリフォルニア大学の国際共同研究チームは、アメリカ大陸沿岸から集めた潮間帯の巻貝の遺伝子を調べた結果、太古の昔に海の生物がアメリカ大陸を横断していたことを世界で初めて突き止めることに成功しました。この研究成果は、2011年9月14日午前8時（日本時間）、英国の学術専門誌「Proceedings of the Royal Society B」（英国王立協会紀要）のオンライン版に掲載されました。



メキシコのマングローブ林の中を這う巻貝

The Best Oral Presentation賞（最優秀口頭発表賞）を受賞しました



椿俊太郎特任助教は2011年11月28日から12月1日にインドネシアで開催された Innovation in Polymer Science and Technology 2011 (IPST2011)において、The Best Oral Presentation賞（最優秀口頭発表賞）を受賞しました。本国際会議は、インドネシア高分子学会およびアジア高分子学会の共催によるものであり、アジア圏を中心とした国際会議で、18ヶ国から約250名の参加者がありました。

椿特任助教は「The Effects of Microwave Heating for Biorefinery」というタイトルで、バイオマス利用の基本となる糖質の加水分解において、マイクロ波照射がグルコースの安定性を高め、生成物の選択性を向上させることなどの成果を発表しました。

テニュア・トラック教員に対するFDを開催しました

平成24年2月8日（水）に「ラボマネージメント」と題してFDを開催しました。若手研究者評価支援機構の副機構長である津田正史教授が講師を務め、参加したテニュア・トラック教員に対し、研究グループ運営にかかわるリーダーが担う機能・役割、研究チームの人事、研究における安全への配慮、研究スタッフの精神面を含めた健康状態管理、目標設定、スタッフとのコミュニケーション、研究活動の記録、研究予算の確保など、研究室の運営に重点を置いた講義を行いました。



平成23年度 外部資金獲得状況

- ◇ 科学研究費補助金（研究活動スタート支援）1件 三浦収特任助教
- ◇ 寄付金 1件（企業）片岡正典特任講師

編集・発行

イノベティブマリンテクノロジー研究者育成事業

News Letter No.4 平成24年3月発行

国立大学法人高知大学 研究協力部研究協力課研究推進特別支援室
〒780-8520 高知県高知市曙町2丁目5-1
総合研究棟3Fプロジェクト共同研究室14
電話：088-844-8842 / FAX：088-844-8333
Email: kk41@kochi-u.ac.jp
URL: <http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>